

土・人・水

長野県大町市大町3887番地
大町市土地改良区
水土里ネットおおまち
地域用水対策協議会
TEL 0261(22)5542
FAX 0261(23)0766
www.midorinet-omachi.jp

高瀬川上流水利運営 委員会設立70周年式典



水土里ネットおおまち地域用水対策協議会が地域用水を市民の宝物として大切にする活動を行っているこの水の利用形態は、今から70年前に高瀬川上流地域の農業・生活・環境保全等に利用する地元用水と、(株)レゾナック・グラフィイト・ジャパン(当時は昭和電工以下(株)R・G・J)の発電用水とを有効的に利用し、安定的な水利システムであり、総合的な水利運営と調整を行うために昭和29年4月に設立され、昨年で節目の70周年を迎えました。

この委員会は、大町市長、大町市土地改良区理事長、大町市土地改良区選出の委員、(株)R・G・J大町事業所の委員、大町市職員をもって組織し、昭和30年7月には、長野県知事の承認を経て、以来、合理的で円滑な水利運営に努めてまいりました。

節目の70年を迎えるにあたって、昨年10月2日(水)に、設立70周年式典を開催いたしました。当日は、長野県



会長から感謝状の授与

議会議員、大町市議会議長、長野県関係者や委員会関係者の皆様からたくさんのお祝辞を頂いた他、当委員会で長年ご活躍された大町市の中村元治さんと二ツ屋の駒澤安正さんに牛越委員長(大町市長)からその功績を称え、感謝状と記念品が贈呈されました。

地球温暖化や、やがて起こりうる大規模地震への備えなど、これから先の未来には、当委員会にとって苦難の道のりですが、これまで通り地域の発展と産業の振興に貢献しつつ、地域の人々の安心安全、豊かな地域環境にも寄与できる様、力を入れてまいります。

鹿島川の白濁



今年の4月に入ってから、ご自宅周辺の水路の水が真っ白に濁ったり、耕作している田んぼの水口などに泥状の白い砂が溜まったりしていませんか。普段から水稲や畑仕事をしている人は勿論、自宅に池がある人や、釣りをを楽しむ人など、気が付いた方は多いと思います。

昨年9月の大雨後も同様の現象が起きたのですが、鹿島川本川が乳白色に濁ったことに起因するものでした。通常の大雨等による河川水の濁りは、茶色又は黒色で、天候の回復と共に徐々に元に戻るものですが、昨年の9月と今年4月に起きたこの白濁現象は、約3週間から4週間程度続き、特に今春に起こった白濁現象は、稲作のための育苗や代掻きの時期と重なったため、営農者や自治会などから、問い合わせが多く寄せられました。

白濁の原因となったこの砂泥ですが、沈殿すると固着し、除去作業に大変苦慮された方も多く聞きました。また、育苗の散水栓のノズルに詰まると、使えなくなってしまう為、普段は水路から水を汲み上げて散水をしていた農家の方も水道水に切り替えたという声も多く寄せられました。

そもそもこの白濁はどこで起き、何が原因かというところですが、昨年、長野県や大町市がドローンやヘリでの調査、河川を遡上しての踏査を行いま



砂が流入した水田

したが、原因の特定に至っておりません。鹿島川源流の一つ大川上流の山崩れが原因とか、カクネ里の水河の動きが原因とか様々な説がありますが、断定ができないことから対応も難しく、この現象がいつまで続くのかが懸念されます。この砂泥の成分について、長野県環境部が調べたところ、アルカリ性で、人体や植物の生育には、無害で、稲作等に悪影響はないという結果が出ました。

我々としては、一安心といったところですが、維持管理や営農にかかる負担増などを思うと手放しには喜べません。鹿島川本川から取水する各水路については監視を強化し、沈砂池の土砂払いなど適切な維持管理に努めるとともに、営農者の皆様や住民の皆様が不安にならない様各機関と協議連携をし、この問題に取り組んでまいりますので、ご理解ください。

水路の安全について

かんがい期（4月末～9月中旬）は、水稻の為、水路に大量の流水がある時期です。一般的に水路の水が増えれば、流速も上がり、危険度も高くなります。更には、梅雨や近年ふえているゲリラ豪雨などの大雨シーズンとも重なるため、大雨による増水で、河川等から取水している以上の大量の水が水路を流れることもしばしばあります。また、かんがい期は農作業者が水口の調整をしたり、水路廻りの草刈りをしたり、ゴミをあげたりなど、水路に近寄る機会が多く、子供達も川遊びをするなど、水に親しむ機会も多いため、水難事故の件数も多くなっています。

今春も管内で、悲しい水難事故が起きました。水路の底は滑りやすく、断面が大きく深い水路は勿論、小さく浅い水路でも、流速が早ければ、足を取られ、大人でも流されて重篤な事故



危険を知らせる看板

につながることもあります。今一度、水路は危険なものとして認識しつつ、特に足腰が弱い高齢者や小さなお子さんがむやみに水路に入らない様、地域の皆様にもぜひ関心の目を持っていただき、お声がけ等をしていただけたら幸いです。

我々も、日々の巡視や、新たな危険個所の洗い出し、安全対策など事故防止に努めてまいりますので、ご協力をお願いいたします。また、「近所に危険な箇所がある」等の情報がございましたら、安全施設の設置について検討いたしますので、市役所建設課または事務局にご相談ください。

小水力発電事業に おける取り組み

令和元年の東日本台風では、県内でも甚大な災害を被り、長野県は、地方府庁として将来の生命を守るために、気候変動対策として緩和と適応の二つの側面から取り組んでいくとし、気候非常事態宣言をすることにも、2050ゼロカーボンへの決意を表明し、現在は「長野県ゼロカーボン戦略」が策定され、小水力発電による再生エネルギーの拡大とエネルギー自立地域確立を目指しています。

大町市土地改良区が長野県や大町市に支援をいただきながら取り組んでいる寄沢（大町新堰）の改修工事の際に併設する小水力発電施設（最大出力197Kwh、年間発電可能量1、



東京電力大町新堰発電所

020Mwh）は、民間が国・県の補助金を入れ、農業用水を利用して発電を行う10基目の施設となります。県営事業（事業費のうち15%を大町市と改良区が負担）によりR6～R7年度は測量設計、R8～R12年度にかけて建設され、R13年度より運営開始の予定です。現段階では、発電した電力はFIT制度の全量売電により土地改良施設の維持管理費、電気料、積立金、土地改良施設の更新費、施設の電動化費用等に充当する予定です。更には将来をみすえた地域社会への貢献のために、災害時の防災電源や、発電施設や事業と一体となったインフラ整備を進めていく他、老朽施設の維持補修、組合員の皆様の負担軽減につながる様、広く意見を頂戴し、進めてまいります。

水力発電は、天候の影響を受けにくく、水さえあればいつでもどこでも発電が可能のため、地球にやさしい再生

可能エネルギーとして注目されています。

寄沢（大町新堰）で生み出される電力は一般家庭約2、800世帯分、CO2削減量は、約5、000tに上ります。今後の技術向上や水利権へのアプローチによっては、現在の1.1倍から1.4倍程度のエネルギーポテンシャルも秘めています。

近い将来、この地域においても一般生活とは別にスマート農業による農業機械の電動化、施設の無人電動化などの波がやってきます。また、近い将来島国日本において、大規模災害発生が懸念されています。本事業により整備された施設は、未来の地域農業を支え、水の恵みを未来へつなげる架け橋、防災の助けとして地域に根付いてほしいものです。

水土里ネットおおまち地域用水対策協議会 令和6年度収支決算書

【収入】

区分	予算額	決算額	比較	付記
負担金	400,000	400,000	0	大町市 230,000 土地改良区 170,000
合計	400,000	400,000	0	

【支出】

区分	予算額	決算額	比較	付記
事業費	226,000	226,100	100	イベント経費他
啓発費	174,000	173,900	-100	機関紙作成代他
合計	400,000	400,000	0	

寺院に關係した用水 ―寺堰と法蔵寺堰―

江戸時代、鹿島川水系から借馬村へ流入する用水は、北から寺堰、北荒沢堰、法蔵寺堰の3本でした。このうち、寺院に關係した名称がついている寺堰と法蔵寺堰について、その由来などを考えてみます。

寺堰は、小熊山の南で北荒沢堰から分枝し、借馬集落の北方を流れて借馬上堰へ流入しています。付近に寺院等がないのに、なぜ「寺堰」というのでしょうか。江戸時代中期の享保7(1722)年に江戸幕府が作成した水争いなどの裁許絵図(以下「裁許絵図」という。)によると、現在は借馬集落の中心地にある海岳院は、古くは、集落を通過する街道が、北西方向へ向かう千国道(千国街道)と木崎方面へ向かう糸魚川街道に分岐する集落の北端にありました。海岳院は、明治まで僧侶が常在する曹洞宗の寺院でしたが、慶安3(1650)年の検地では観音寺とされており、元来は真言宗であったとみられます。地名などから広い境内をもち、寺堰はこの旧海岳院へ向かって流れていたことが、堰名の由来と考えられます。



現在の海岳院

寺堰の南には、現在は金山社ですが、古くは神明社であった鎮守の社が存在し、周辺は、集落にとって大切な土地でした。また、法蔵寺堰は、現在は、二ッ屋地籍の南東で南荒沢堰(旧町川堰)から分枝し、さらに中荒沢堰を分枝していますが、裁許絵図には中荒沢堰の記載はなく、法蔵寺堰が集落の南部を灌がいする主要な用水でした。お経などを納めた経塚とみ

られる行山塚に向かつて一直線に流下し、流末は、若一王子神社西方の土場堰に流入しており、流路や地名などから下流は、薪などの運搬にも使用されていたようです。堰の名称は、現在の西原地籍にあったとされる法蔵寺に由来しています。江戸時代には、すでに寺院施設は存在しておらず、裁許絵図には「法蔵寺河原」と地名のみが記載されていますが、借馬村では、享保6(1721)年に実地検分に来た幕府の役人を寺院や護摩壇跡へ案内し、古くは真言宗の寺院が存在したと伝えていました。現地は、鹿島川の氾濫が流下する可能性が高く、「河原」の名称から古い時代に水害などで流出したことも考えられます。

いずれにしろ中世の寺院は、領主の手厚い保護を受けており、寺院の開創は、地域の開発と密接に關係していました。また、寺院では入浴が大切な仏事であり、清浄な用水も必要でした。借馬村の検地帳には「ふろめん」の記載があり、村内に、古くは寺院關係の「風呂」に伴う免租地があったようです。こうした背景の中で、両用水堰に寺院ゆかりの名称がつけられたものと考えられます。

(文責 荒井今朝一)



享保七年(1772)年 大沢寺山水論幕府裁許絵図
(部分、一部表示加筆)

第26回ふれあいイベント「土・人・水」の報告と第26回開催のお知らせ

第25回ふれあいイベント「土・人・水」は、令和6年8月24日(土)に、平猫鼻の越荒沢親水公園で開催されました。

「越荒沢堰の清らかな水の恵みを未来へつなげよう!」という趣旨のもとに、例年実施している越荒沢親水公園の景観整備に加え、郷土史研究家の荒井今朝一さんに大町市の「水と郷土の歴史」についてお話をいただいた他、スイカ割や岩魚つかみ、稚魚の放流など子ども達を中心に盛り上がりしました。

当日は晴天に恵まれ、怪我などもなく盛況のうちに終了となりました。イベントにご協力いただいた各団体の皆様に改めて感謝申し上げます。

また、令和7年度も引き続き、当イベントを8月30日(土)7時30分より大町市平猫鼻の越荒沢親水公園で開催いたします。魚つかみを中心に、たくさんの方の企画を準備しておりますので、ご家族そろってご参加ください。参加費は無料です。

水路への刈草や、枝葉、

ゴミの流入にご注意を

剪定や刈り作業が多いこの時期、市内のいたるところに設置している、ゲートや水門、ゴミ取り柵など様々な場所に、家庭ごみや、刈り草、枝葉などが詰まるケースが見受けられます。

水路詰まりが発生すると、通水障害の影響から、農地や宅地への浸水や、水高が増すことにより危険な状態となりますので、水路際の刈り草や剪定作業の際は、作業事故に十分ご注意ください。共に、刈草・枝葉を水路に流さない様ご配慮をお願いいたします。

水土里ネットおおまち地域用水対策協議会主催

第22回「ふるさと田んぼと水」 子ども絵画展

今回で第22回目を迎える子ども絵画展ですが、今回は、大町西小と東小の生徒が米作り体験の稲刈りを版画で表現、応募してくれました。どの作品も画面いっぱいに作業する姿がよく描かれていて、未来の礎となる子供達の気持ちが伝わり感銘をうけました。中でも好評を受けた受賞作品をご紹介します。

会長賞



「稲刈り」
大町東小5年生 中山 琴音さん

理事長賞



「大変だったいねかり」
大町西小5年生 原 涼真さん

佳作



「いねかりのはんが」
大町東小5年生 一木 真代さん



「協力したいねかり」
大町東小5年生 齊藤 真央さん



「せんぱいのいねかり」
大町西小5年生 馬場 崇良さん



「カラフルな人がいねかりしてる。」
大町西小5年生 渡部 杏樹さん

令和7年3月24日 授賞式の様子



授賞式の様子



記念写真

ホームページもあります。
水土里ネットおおまち で検索 🔍
<http://www.midorinet-omachi.jp>

